

ベルイマンを知らないあなたもベルイマンを知っている

町山智浩（映画評論家）

あなたはもしかすると、イングマール・ベルイマンの映画はいちども観たことがないかもしれません。でも、あなたが映画ファンなら、知らないうちにベルイマンの影をずっと見てきたはずです。誰もが知っているあの映画この映画が、ベルイマンから生まれたものだからです。

たとえば、デヴィッド・芬奇の『ファイト・クラブ』。ブラッド・ピットがカメラに向かって消費社会への怒りを吐き出すと、あまりの怒りでフィルムが映写機のスプロケットから外れるという衝撃的なシーンがあります。あれは、ベルイマンの『仮面／ペルソナ』という映画で、ヒロインの怒りでフィルムが映写機に引っかかる炎上するシーンに影響されています。さらに『ファイト・クラブ』ではエンディングにペニスの写真が1コマだけ、サブリナルのように挿入されていますが、同じことをベルイマンは『仮面／ペルソナ』の冒頭でやっているのです。その他、ドゥニ・ヴィルヌーヴの『複製された男』、スピルバーグの『ポルターガイスト』、デヴィッド・リンチの『マルホランド・ドライブ』などに、ベルイマンの『仮面／ペルソナ』を模倣したシーンがあります。

マーク・ウェブの『(500)日のサマー』、ジョン・マクティアナンの『ラスト・アクション・ヒーロー』、リンチの『ロスト・ハイウェイ』が、ベルイマンの『第七の封印』で主人公が死神と会う場面を引用しています。

ウイリアム・フリードキンの『エクソシスト』は、悪魔に取りつかれた少女の服装、部屋、十字架を股間に突き刺すシーンが、ベルイマンの『叫びとささやき』を元にしています。ミヒャエル・ハネケの『ピアニスト』、ラース・フォン・トリアーの『アンチ・クリスト』にも、『叫びとささやき』の影響をはっきり観ることができます。

アレハンドロ・G・イニヤリトの『バードマン』あるいは『無知がもたらす予期せぬ奇跡』、ティム・バートンの『ビッグ・フィッシュ』は、ベルイマンの『野いちご』なしにはありませんでした。

ウェス・クレイブンの『鮮血の美学』は、ベルイマンの『処女の泉』のスプラッター版として作られました。

アンドレイ・タルコフスキイ、ウディ・アレン、ロバート・アルトマン、ブライアン・デ・パルマ、ジャン=リュック・ゴダール、フランソワ・トリュフォー、フェデリコ・フェリーニ、スタンリー・キューブリック……、みんなベルイマンに倣った映画を作っています。

それはベルイマンが古典で基本だからではありません。『仮面／ペルソナ』の炎上するフィルムに代表されるように実験的で型破りでした。いわばロックにとってのビートルズが、世界の映画にとってのベルイマンだといえます。

「ベルイマンのテーマは『神の沈黙』である」とよく言われます。なにやら難しく偉大な芸術家の大先生のように聞こえますが、そうではないと思います。ベルイマン本人はコンプレックスと欲望に勝てないダメな自分を映画のなかで赤裸々にさらけ出してきた人でした。厳格な牧師の息子に生まれ、母を虐待する父を憎み、それが神への不信になりました。また、子どもの頃から性に対する興味が強く、監督になると、主演女優と次から次に恋愛関係になり、次から次に愛した女性を傷つけ、その彼女たちを映画で共演させ、自分史をそのままフィルムに収めてきたのです。

革命的で、捷破りで、ダメ人間で、正直なベルイマン。その作品は今も新鮮さを失いません。この機会にぜひ、ご覧ください。



イングマール・ベルイマン = 1918年7月14日、プロテスタントの聖職者の父エーリックと母カーリンの次男として、スウェーデンの大学都市ウプサラで生まれる。演劇好きの妹の影響で、幼少期から人形遊びに夢中になる。10歳のクリスマスに祖母に映写機をプレゼントされたことをきっかけに映画に魅了され、当時の夢は映写技師になることだった。大学在学中は演劇を学び、44年シェーべル監督もだえで脚本を手掛け、46年『危機』で映画監督デビュー。以後、60年以上にわたるキャリアの中で、50本以上の作品を残した。平行してストックホルム王立劇場の芸術監督して数々の演劇の演出を務める。1982年、最後の監督作と宣言した『ファニーとアレクサンデル』以降、テレビと演劇に活躍の場を移したがビニアウグスト監督『愛の風景』(92年)など脚本家として映画作品に携わることもあった。2003年、突如として20年ぶりの監督作『サラバンド』を発表。2007年7月30日、バルト海の孤島フォール島の自宅で死去、享年89。



配給：ザジフィルムズ、マジックアワー
後援：スウェーデン大使館

2018年7月21日(土)より開催！

全国共通特別鑑賞券発売中！

★特別鑑賞券（税込）※『ファニーとアレクサンデル』以外の12作品でご利用いただけます

1回券：1,200円／3回券：3,000円 当日料金／一般：1,500円／シニア：1,100円／学生（大・高）：1,300円／学生（中・小）：1,000円／プライベートシート：2,000円

★『ファニーとアレクサンデル』専用特別鑑賞券（税込）

2,000円 当日料金／2,500円／プライベートシート：2,700円（特別興行につきサービス代や各種割引は適用外）

*クラブパス会員割引詳細については劇場HPまで

劇場窓口又はメジャー・ネット通販にてお求めの方に限り、オリジナルグッズプレゼント！（数量限定）

①『叫びとささやき』ポストカード ②『ファニーとアレクサンデル』ポストカード

③ ベルイマン直筆イラスト&サイン入り オリジナルクリアファイル

1回券…①／3回券…①+③／『ファニーとアレクサンデル』専用券…②+③



恵比寿ガーデンプレイス内
YEBISU GARDEN CINEMA
0570 (783) 715
www.unitedcinemas.jp/yebisu/

1918
BERGMAN

150
SWEDEN-JAPAN
日本 スウェーデン 2018



Ingmar Bergman

100th anniversary Film Festival

ベルイマン生誕100年映画祭

デジタル・リマスター版

夏の遊び ◆ 夏の夜は三たび微笑む ◆ 第七の封印 ◆ 野いちご ◆ 魔術師 ◆ 処女の泉 ◆ 鏡の中にある如く
冬の光 ◆ 沈黙 ◆ 仮面／ペルソナ ◆ 叫びとささやき ◆ 秋のソナタ ◆ ファニーとアレクサンデル
Sommarlek | Sommarnattens leende | Det sjunde inseglet | Smultronstället | Ansiktet | Jungfrukällan | Såsom i en spegel
Nattvardsgästerna | Tystnaden | Persona | Viskningar och rop | Höstsonaten | Fanny och Alexander



ベルイマン生誕100年映画祭 Ingmar Bergman デジタル・リマスター版

「映像の魔術師」、「北欧映画界の至宝」…、映画というカテゴリーにとどまらず、芸術全般において最大の賛辞をもって世界中の人々から呼称される、20世紀が生んだ唯一無二の映画作家イングマール・ベルイマン。1918年スウェーデンで生まれ、2007年に没した巨匠の生誕100周年にあたる2018年、偉大なる業績を振り返る大規模なレトロスペクティブが世界各地で開催されている。その巨匠然とした風格から、しばしば難解だ、といいうイメージが先行する作品群にあって、ベルイマンが終始描きたかったのはただひとつ。

——今、私の隣にいる人は、何を思っているのだろうか？

愛し合っているのに分かれられない、いやそもそもそう思うこと自体が間違いないのかもしれない。でも、もっと深くあなたを知りたい…。そんな等身大の葛藤が、彼の映画には深く刻まれている。それゆえ、ベルイマンの映画を映すスクリーンは、観客にとって鏡となる。そこには、悩み楽しみながら日々を生きる、ほかでもない私たちの姿が映っているのだ。それでも人生は素晴らしい。うつぶやくベルイマンが仄かに照らす光は、今なお一層の厳しさと優しさを携えて、まばゆく輝き続けている。100年に一度のアニバーサリーイヤーとなった2018年、ベルイマンの世界に心ゆくまで浸る、またとない機会を、どうぞご堪能ください。

前期 || 北欧では、短い夏は“生命”的象徴。やがては悩みの種に変わってしまうかもしれないが、若きベルイマンにとっては恋こそすべて。降り注ぐ陽光のもと、恋に焦がれ、恋と戯れる男女の恋愛模様を描く。

夏の遊び

1951年／スウェーデン／スタンダード／90分
出演：マイ・プリット・ニルソン、ピリエル・マルムステーン
脚本：イングマール・ベルイマン
撮影：グンナール・フィッセル
© 1951 AB Svensk Filmindustri



夏の夜は 三たび微笑む

◆第4回カンヌ国際映画祭 詩的ユーモア賞
1955年／スウェーデン／スタンダード／104分
出演：グンナール・ビヨルンストランド、ウーラ・ヤコブソン
撮影：グンナール・フィッセル
© 1955 AB Svensk Filmindustri



中期I || 国際的な名聲と評価を獲得し、撮りたい映画が撮れるようになった。神と宗教、現実と幻想、良心と狂気、記憶と夢…といったモチーフが縦横無尽に展開され、ベルイマン節が炸裂する充実期の傑作4本。

第七の封印

◆第10回カンヌ国際映画祭 審査員特別賞
1957年／スウェーデン／スタンダード／97分
出演：マックス・フォン・シダー
グンナール・ビヨルンストランド
撮影：グンナール・フィッセル
© 1957 AB Svensk Filmindustri



野いちご

◆第8回ベルリン国際映画祭 金熊賞
◆1962年度キネマ旬報外国語映画ベスト・テン第1位
1957年／スウェーデン／スタンダード／91分
出演：ヴクトル・シェースレム、英格リッド・チューリン
撮影：グンナール・フィッセル
© 1957 AB Svensk Filmindustri



魔術師

◆第20回ヴェネツィア国際映画祭 審査員特別賞
1958年／スウェーデン／スタンダード／99分
出演：マックス・フォン・シダー、英格リッド・チューリン
ベント・エーケロー
撮影：グンナール・フィッセル
© 1958 AB Svensk Filmindustri



処女の泉

◆第33回アカデミー賞外国語映画賞
◆第17回ゴークデン・グローブ賞外国語映画賞
◆1961年度キネマ旬報 外国語映画ベスト・テン第1位
1960年／スウェーデン／スタンダード／89分
出演：マックス・フォン・シダー、ビルギッタ・ヴァルベリ
脚本：ウラーサーコン 撮影：スヴェン・ニクヴィスト
© 1960 AB Svensk Filmindustri



怪奇現象、超能力、交霊術…といったオカルト的要素に科学と呪術、芸術と権力などの二項対立をもつた煮て凝縮し、愉快なエンタテイメントへと昇華した異色作。旅廻りのマジシャンの一連と、彼らの見世物のトリックを見破ろうとする役人たちの一連のいたちごっこを描く。ベルイマンが問う、芸術家とショービジネスの正体。

スウェーデンが生んだ“20世紀最大の巨匠”イングマール・ベルイマン
全キャリアにおける厳選の傑作13本がデジタル・リマスター版でスクリーンに甦る—

中期II || 『鏡の中にある如く』から始まる『神の沈黙』3部作で、現代人の病めるところの奥底を凝視したかと思えば、続く『仮面/ペルソナ』では芸術と狂気のギリギリの境界線にまで侵入する。前人未踏の領域へと深化してゆくベルイマンの世界。

鏡の中にある如く

◆第34回アカデミー賞 外国語映画賞
1961年／スウェーデン／スタンダード／89分
出演：グンナール・ビヨルンストランド、マックス・フォン・シダー
ハリエット・アンデルソン、ラ尔斯・バッスガルド
撮影：スヴェン・ニクヴィスト
© 1961 AB Svensk Filmindustri



夏、孤島にやってきた4人の家族。狂気へと走ってゆく娘に対し親として何もできず、むしろ作家としてその姿を冷徹に記録したいと思ってしまう父。愛をささやきながら、沈黙するほかない夫。無邪気な弟は、唯一の心の拠り所だったが…。神の前提なしでいかに愛を証明するか、その途方もない模索が始まった。

沈黙

1963年／スウェーデン／スタンダード／96分
出演：英格リッド・チューリン、グンネル・リンドブロム
撮影：スヴェン・ニクヴィスト
音楽：J・S・バッハ
© 1963 AB Svensk Filmindustri



言葉が全く通じない国に来てしまった翻訳家の姉と奔放な妹、そして妹のひとり息子。しかもお互い唯一の話し相手であるはずのその姉妹は、嫌いあっている。この絶望的な状況。完結編に至り、ようやく“神の沈黙”が意味するものがおぼろげに見えてくる…。静寂の中、かすかに聞こえるささやき。映画史上、最も多くの分析がなされたと言われる問題作。

冬の光

◆1963年OCIC国際カトリック映画局グランプリ
◆第9回ウィーン宗教映画週間 最優秀外国映画賞
1963年／スウェーデン／スタンダード／82分
出演：グンナール・ビヨルンストランド、マックス・フォン・シダー
撮影：スヴェン・ニクヴィスト
© 1963 AB Svensk Filmindustri



『鏡の中にある如く』『沈黙』とともに“神の沈黙”三部作。主人公の牧師の苦悩を通して、「神の不在」を宣言し、描き出す。信者の男が終末への恐怖から自殺するが、牧師はただ祈ることしかできない。神は何故沈黙したまなのか？これを最高傑作とする声も多い、自伝的要素が色濃く反映したベルイマン入魂の作品。

仮面/ペルソナ

◆第2回全米批評家協会賞 作品賞・監督賞
主演女優賞
1966年／スウェーデン／スタンダード／82分
出演：ビビ・アンデショーン、リヴ・ウルマン
撮影：スヴェン・ニクヴィスト
© 1966 AB Svensk Filmindustri



失語症に陥ったスター女優と、彼女を看病することになった看護婦。海辺の別荘でふたりだけで生活していくうちに、お互い自意識の“仮面”が剥がされ、溶け合い、交錯していく…。『映画』と名付けられる予定だった本作は、ベルイマンによる映画論だ。終生にわたるパートナーとなったリヴ・ウルマンは、本作で出会い、以降共に傑作を生みだしてゆくことになる。

後期 || いくら祈っても誰も救ってくれず、見つめあっているのに分かりえない悲しい世界にあっても、ベルイマンは高らかにこう宣言する。
今日を楽しめ——。「女たちの世界は私の宇宙」と語るベルイマンが老いてようやく描けるようになった、3つの女性たちの物語。

叫びとささやき

◆第40回アカデミー賞 撮影賞
◆1972年全米批評家協会賞 脚本賞・撮影賞
◆1973年キネマ旬報 外国語映画ベトナム 第2位
1973年／スウェーデン／ビスタ／91分
出演：英格リッド・チューリン、ハリエット・アンデルセン
リヴ・ウルマン、カリ・シルヴァン
撮影：スヴェン・ニクヴィスト
音楽：F・ショパン、J・S・バッハ
© 1973 AB Svensk Filmindustri



19世紀末のスウェーデンの大邸宅。優雅な生活を送る上流階級の3人姉妹と召使。4人の女性のそれぞれの愛と孤独、生と死の断片を強烈な赤のイメージで抉り出し、まさにベルイマン芸術のエッセンスが花開いた名作。トリフォーが絶賛し、アメリカでのベルイマンの最大のヒット作となった。

秋のソナタ

◆1978年ゴークデン・グローブ賞外国語映画賞
◆1978年全米映画批評家協会賞 主演女優賞
◆1978年ニューヨーク映画批評家協会賞
主演女優賞
1978年／西ドイツ／ビスタ／92分
出演：英格リッド・バーグマン、リヴ・ウルマン
撮影：スヴェン・ニクヴィスト
© 1978 AB Svensk Filmindustri



“永遠のクール・ビューティー”イングリッド・バーグマンがベルイマンと組んだ遺作にして最高傑作。自身の人生と重ね合わせるかのような設定の役に葛藤を乗り越え挑んだバーグマンとベルイマン映画のミューズ、リヴ・ウルマンとの火花散る愛憎劇は「映画史上最高のシーン」と絶賛された。

フアニーとアレクサンデル

◆第56回アカデミー賞 外国語映画賞・撮影賞・美術賞・衣装デザイン賞
◆第41回ゴークデン・グローブ賞 外国語映画賞受賞 ◆第40回ヴェネツィア国際映画祭 国際批評家連盟賞
◆第49回ニューヨーク批評家協会賞 外国語映画賞・監督賞
◆第9回ロサンゼルス批評家協会賞 外国語映画賞・撮影賞 ◆第9回セザール賞 外国語映画賞
1982年／スウェーデン＝フランス＝西ドイツ／ビスタ／311分
出演：ペルニラ・アルヴィーン、バッティル・ギューヴェ、アラン・エドヴァル、エヴァ・フレーリング、グン・ヴォルグレーン
撮影：スヴェン・ニクヴィスト © 1982 AB Svensk Filmindustri, Svenska Filminstitutet. All Rights Reserved.



劇場を経営する一族の2年間を、二人の幼い孫の視点を通して豪華絢爛に描き、ベルイマンをして「映画作りの面白さを味わい尽くした」と言わしめ、世界中で大ヒットを記録した集大成たる超大作。受難の旅を経た彼らの無垢な祈りは、生きとし生けるものすべての悲しみを包み込み、生の喜びに満ち溢れたこの上ない幸福なステージへと私たちを導くだろう。

